人から人へ
PtoP NEWS
ピープル ピープル
vol.26
2018.06
PtoP：作る人と食べる人が共に支え合う仕組み

特集

フィリピンではじまった「砂糖税」

今月のTOPIC

ネグロス・KF-RCスタッフ来日！

JCNC岡山の設立30周年記念パーティーへの招待を受けて、フィリピン・ネグロス島のカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-RC）のスタッフ、チータさんとジョネルさんが来日し、4月12日からの約2週間で、日本各地の約300名の方々と交流をしました。

交流をした皆さんにも、バランゴンバナナやマスコバド糖の民衆交易に対する思い、KF-RCの活動に寄せる思い、ネグロス島の人びとに対する思いなど、それぞれの思いがあって、今こうしてつながっているのだなと改めて実感をしました。

2人もこれまでと今の思いを各地で語ってくれました。チータさんは主にバランゴンバナナ事業が始まった当時苦労したこと、循環した農業から地域を良くしていくことや次世代の農民を育てていくという当初の思いを今も継いでいることのやりがいを、ジョネルさんは土地を手放すことなく、自分たちの手で自由に食べものを育てる喜びやそうした若者を育てることができている喜びなどを語ってくれました。　寺田俊（てらだ・しゅん/APLA）

KF-RCのスタッフがFacebookで現地の最新情報を発信中！

Kaneshige-Farm-Rural-Campus-Foundation

特定非営利活動法人APLA（Alternative People's Linkage in Asia）
フィリピン・ネグロス島での30年以上の経験を活かし「農を軸にした地域づくり」のためのネットワークの構築を目指して、出会いや交流の場の創造を進めています。 www.apla.jp

株式会社オルター・トレード・ジャパン（ATJ）
バラゴンバナナやエコシュリンプなどの食べ物の交易で、生産者と消費者の顔と顔が見える関係でつなぎ、人と人、自然が共生できる社会づくりを目指しています。 http://altertrade.jp

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15サンライズ新宿3F
TEL03-5273-8160 FAX03-5273-8667 MAILinfo@apla.jp

過去のPtoP NEWSはこちらから
特定非営利活動法人APLA

ここが知りたい！

オリーブオイルの品質

パレスチナ料理「ムサハン」。食べた後は、口の周りがピカピカになるぐらいオリーブオイルがたっぷり！

巷お店に並ぶオリーブオイル、どれを選ぶかとても悩ましい商品の一つではないでしょうか。地中海沿岸地域を原産地として紀元前から栽培されるオリーブ。オリーブの搾油技術が確立するまでは「貴重品」として扱われていたこともあり、偽の品質表示などが絶えず、古代ローマ時代からすでに「格付」が存在していたといわれています。第二次世界大戦以降、戦争で産地が荒れたスペインやイタリアの農業復興の目的で「国際オリーブ協会（IOC）」が設立され品質規格が設けられましたが、それでも品質偽装が絶えず、その規格や官能検査基準の甘さを指摘する声もあるようです。

オリーブオイルにもワインのように「ソムリエ」がいます。絶対的な優劣はつけず、オリーブオイルが持つ香り、風味のなかにディフェット（欠点）がないかを確認し、そのオイルがどんな料理に合うのかを判断します。

ちなみに、オルタート・レード・ジャパンが取り扱うパレスチナのオリーブオイルの産地では、「何と言っても、自分の畑で採れたオリーブからとったオイルが一番！」と、搾りたてフレッシュなオリーブオイルよりも時間をおいて落ち着いた（酸化した？）ものを好み、大地の恵みを余すことなく味わっている生産者もいます。出会ったオイルの風味を感じ、どんな料理に合うか想像しながら使ってみるのも楽しいですね。

山下万里子（やました・まりこ/ATJ）

オリーブオイルに関する詳細 ☞ http://altertrade.jp/olive

産地の暮らしを垣間見る 1枚の写真から

目も腹も満たしてくれる北ルソンの段々畑

from フィリピン

風の谷のようなここは、首都マニラがあるルソン島の北部。冷涼な気候を活かした高原野菜の栽培が盛んです。幹線道路では、野菜をぎゅうぎゅうに積み込んだトラックとすれ違い、そして山の傾斜に広がる段々畑が目に飛び込んできます。絶景に見入ってしまいましたが、生産物を道路まで担いで運び上げることを想像すると、その苦労に我へと返ります。ここで採れた野菜の多くは、首都マニラの食を支える大きな役割を担っています。見るは絶景、作るは大変。農民への感謝を忘れてはいけないと思いながら再び車を走らせました。

寺田俊（てらだ・しゅん/APLA）

特集

フィリピンではじまった「砂糖税」

from フィリピン

サトウキビの収穫風景

フィリピンの税制改革と「砂糖税」

「砂糖の島」ネグロスで、2018年1月から砂糖を使用した飲料への課税が始まりました。ドゥテルテ政権が進めた税制改革法(Tax Reform for Acceleration and Inclusion Law)の一環として、「加糖飲料税」が導入されたもので、税額は砂糖及びノンカロリー甘味料を使用した飲料に対して1リットル当たり6ペソ（約12円）、コカコーラ等の清涼飲料に広く使われている高フルクトース・コーンシロップ（異性化糖）を使った飲料はその2倍の課税額となります。

今回の税制改革は、加糖飲料やアルコール、タバコ等の生活習慣病の要因となる製品への課税によって消費を抑え、医療費や病気による機会損失の低減を図ると同時に、高所得者層の所得税率の引き上げや石油やLPガス等の燃料、自動車といった特定商品への物品税の課税により財源を確保し、低所得者層の所得税の減額や社会保障の充実、インフラ投資などの財源とすることを目的としているそうです。

記事：Sugar tax: what you need to know
https://theconversation.com/sugar-tax-what-you-need-to-know-94520

「砂糖税」の目的

いわゆる「砂糖税」の導入は、糖類の過剰摂取による肥満や2型糖尿病をはじめとした健康被害の対策として各国で始まっており、欧米では糖分を多く含む炭酸飲料などを主な課税対象としていることから「ソーダ税」とも呼ばれています。

2014年現在で、約4200万人の子ども（内ほぼ半数がアジア地域）を含む6億人以上の人びとが肥満を患っていると言われています。世界保健機関（WHO）はその主な原因のひとつを、食品や飲料に添加される単糖類（グルコースやフルクトースなど）や二糖類（スクロースや砂糖など）、蜂蜜、フルーツジュース、フルーツジュース濃縮物等の天然の素材にもとから含まれる糖によるとしています（注1）。WHOは肥満や2型糖尿病や虫歯等の生活習慣病を減らすためには、その摂取量を少なくとも総エネルギー摂取量の10％以下（1日25ｇ・スプーン6杯）にする必要があるとして、砂糖飲料の小売価格を上昇させるための税金の仕組みや、野菜や果実の摂取を促すための補助金制度等の財政政策の導入を促し、増えた税収を社会福祉や健康増進のための政策や助成金に充てることを加盟国に推奨しています（注2）。

砂糖税の導入は、1930年代に導入したデンマークをはじめ、近年フィンランド、ハンガリー、フランス、メキシコ、アイルランド、英国、ノルウェー、UAE、米国（カリフォルニア州バークレー市などの一部の市のみ）で実施されています。アジアでは、タイで2017年9月に砂糖の含有量に応じた「砂糖税」の上乗せが段階的に始まり、フィリピンでは前述の通り2018年1月より「加糖飲料税」が導入されました。

第二の砂糖危機がやってくる！？

フィリピンの全国砂糖労働者組合（NFSW）は、今回の税制改革によって砂糖で生計を立てる人びとが影響を受けるのではないかと懸念しています。フィリピンで生産されるいわゆる普通の砂糖(ショ糖やマスコバド糖)を使用した飲料も課税対象とされているために、砂糖全般の消費を減らし、砂糖に関わる人びとの仕事を奪う恐れがあるからです。

加糖飲料や燃料をはじめとした物品税の引き上げは物価全般に影響を及ぼしてきており、人びとの生計への負担が増えています。さらに「砂糖税」によって、物価の高騰と砂糖消費の冷え込みが予想されるため、砂糖の生産に関わる78万人以上の人びとや製糖工場で働く2万5千人の人びとにとって、安価な異性化糖の輸入などの影響で砂糖価格が低迷していることも合わせ、第２の砂糖危機を招くのではないかと危惧されています。

義村浩司（よしむら・ひろし/ATJ）

異性化糖の輸入に抗議のデモをするネグロスの砂糖生産に関わる労働者たち
https://umapilipinas.wordpress.com/2017/04/18/agriworkers-demand-stop-to-hfcs-imports-other-neoliberal-attacks/

注1 肥満と２型糖尿病の主な原因は、高炭水化物食の摂取と、特に高フルクトースコーンシロップ（異性化糖）の過剰摂取（主として清涼飲料から）によると言われています。米国プリンストン大学の研究者たちは、動物実験で、ショ糖を摂取したマウスより同量の異性化糖を摂取したマウスの方が、顕著な体重増加を認めたと報告しています。その他、多くの研究者たちが動物実験やヒトの研究から、肥満、糖尿病、インスリン抵抗性、メタボリック症候群など、異性化糖の健康への害を報告しています（出典：ロバストヘルス）。

注2 出典：WHO 2016、食習慣および非感染症の防止に関する報告書「Fiscal policies for Diet and Prevention of Noncommunicable Diseases (NCDs)」

ネグロス産「マスコバド糖」に関する詳細は
☞ http://altertrade.jp/mascobado